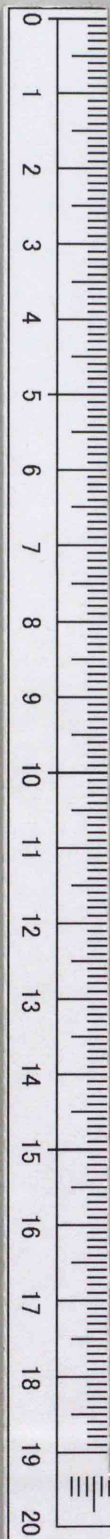
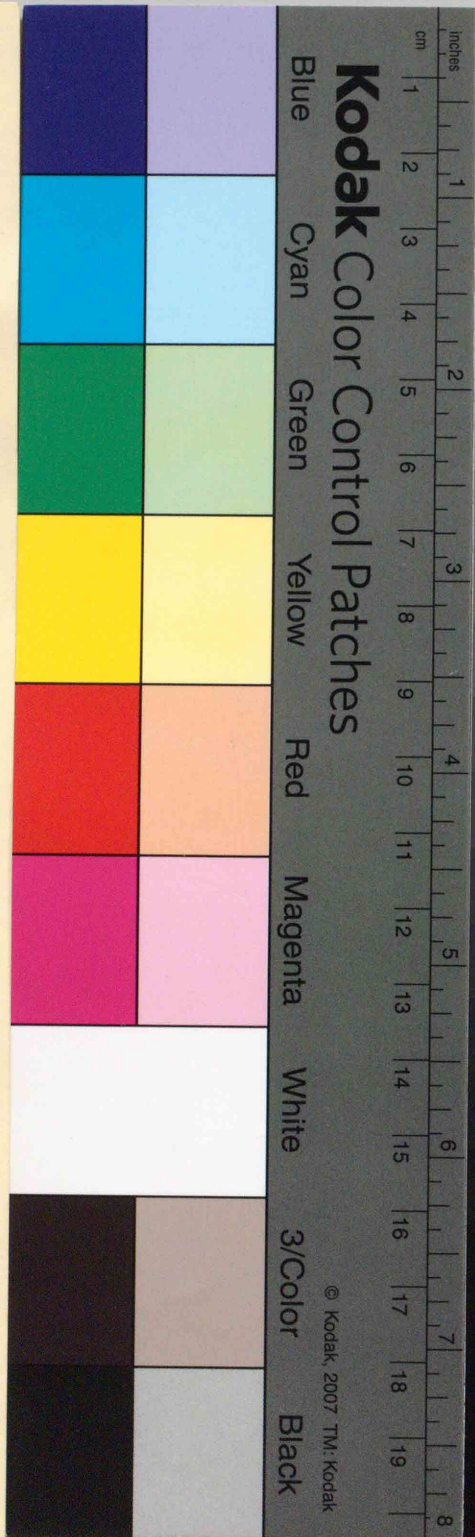


41109

教科書文庫

4
670
32-1932
01304
49263



田中満三著

高等小學

簿記書

卷一

広島大学図書

0130449263



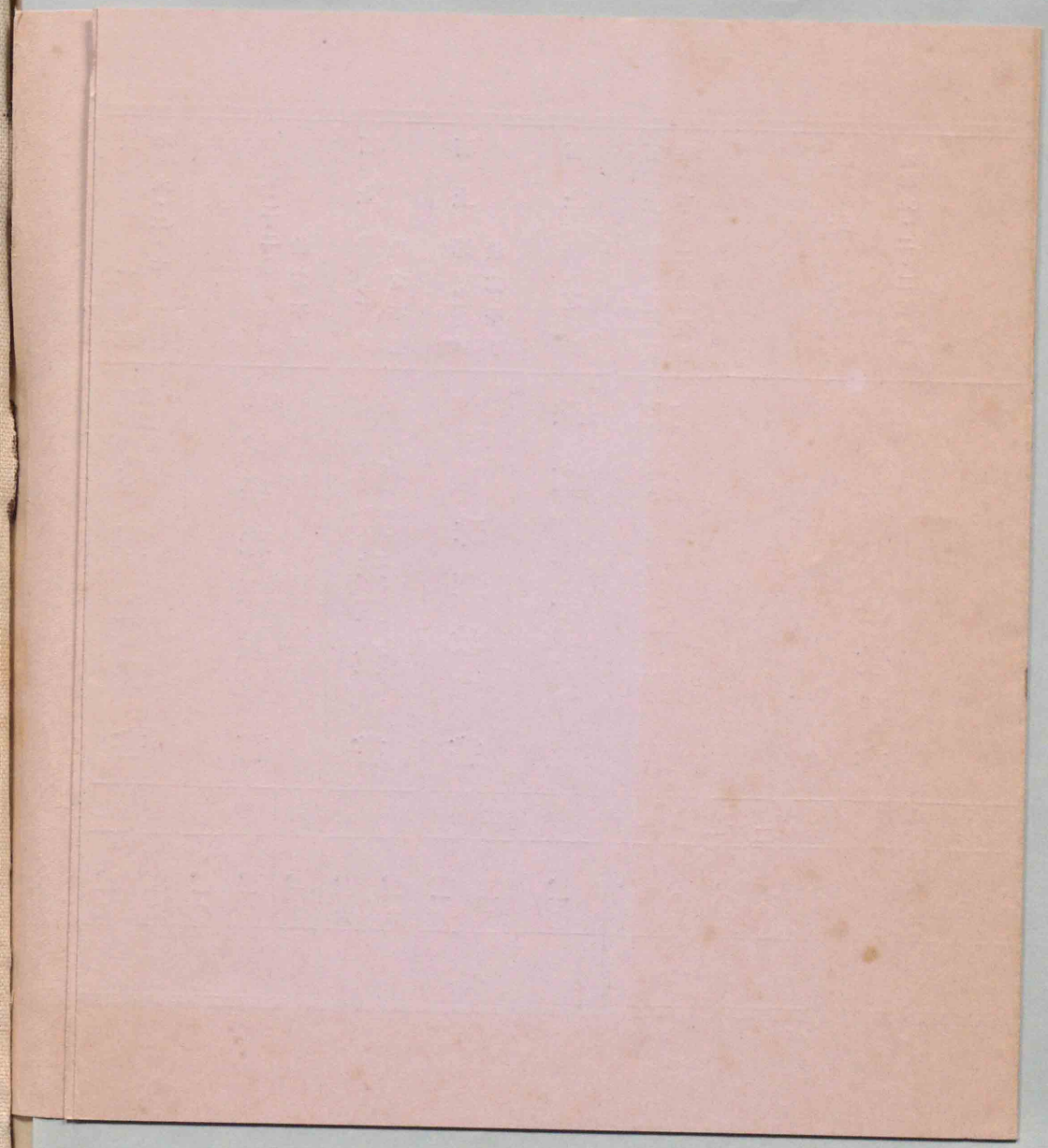
東京

彰文館發行

325.9
Ta14

東亞圖書公司
發行所
上海

東亞圖書公司



昭和大一・一五日檢定済	田中滿三 昭和七・一・二八日檢定済	田中滿三 昭和八・一・二二日檢定済	後藤一郎 昭和七・一・三〇日檢定済	後藤一郎 昭和九・三・一日發行	後藤一郎 昭和九・二・七日發行	川村貫治 昭和九・二・二〇日發行	石上錄之助 檢定不要	石上錄之助 檢定不要	石上錄之助 檢定不要	石上錄之助 昭和七・九・二八日發行	星野長作 昭和九・二・三日發行	高橋喜藤治 昭和九・二・二日十版發行	農林教育研究會 昭和八・一・二・三日三版發行	歴史教育研究會	史蹟調査會編	
子女高等小學商業書	小學簿記	小學簿記	新簿記教科書	高等實踐商業書式	高等實踐珠算教科書	標準小學珠算教科書	高等實踐珠算教科書	實業新珠算教科書	珠算練習傳票	珠算實習傳票	模範小學作法教科書	教科書準據 算術補充問題集	農業實習日誌	小學日本國史參考圖	教科書準據 日本國史年代圖表	
上	下	上	下	上	下	上	下	上	全	B A	年一 年二 年三 年四 年五 年六 年尋 科高等	年一 年二 年三 年四 年五 年六 年尋	年一 年二 年三 年四 年五 年六 年尋	全	全	
三五	三〇	二〇	一九	一八	一八	二〇	一六	一八	一〇	〇八	〇八	〇八	〇八	二二	三五	一五

發行所 東京市神田區小川町二ノ三
彰文館書店
 振替東京六一一九六番
 電話神田三四一八番

小學校教科書は 補習學校教科書は

此の中から

御選定下さい!!!

内容の嚴選——定價の至廉

英語教授研究會編輯局 昭和四・三・八日檢定済	Royal Crown Readers For Elementary Schools	一	、三三
稻村松雄 昭和八・二・四日檢定済	New Royal Crown Readers For Elementary Schools	一	、一九
稻村松雄 昭和七・一・二三日檢定済	Modern Life Readers For Elementary Schools	一	、二七
稻村松雄 昭和九・二・一〇日檢定済	Girls' New English Readers For Elementary Schools	一	、一八
彰文館編輯部 昭和八・二・一〇日檢定済	New Elementary School Penmanship	二	、一三
杉山敬三 昭和九・一・五日發行 檢定不要	Shin Romaji Tokuhon (Hebon-shiki)	全	、一八
稻村松雄 昭和九・一・八日發行 檢定不要	Nippon Romaji Tokuhon (Nippon-siki)	全	、一六
田中滿三 昭和六・一・二六日發行 檢定不要	實踐商事要項	上	、五〇
田中滿三 昭和六・一・二六日發行 檢定不要	實踐商事要項	下	、五〇
星野太三郎 昭和六・一・一五日檢定済	高等小學商業書	上	、三五
田中滿三 昭和七・一・二八日檢定済	高等小學商業書	下	、三五
田中滿三 昭和八・一・二二日檢定済	子女高等小學商業書	上	、三〇
田中滿三 昭和八・一・二二日檢定済	子女高等小學商業書	下	、三〇
後藤一郎 昭和七・一・三〇日檢定済	新簿記教科書	上	、一九
後藤一郎 昭和七・一・三〇日檢定済	新簿記教科書	下	、二四
後藤一郎 昭和九・三・一日發行	高等實踐商業書式	上	、一八
後藤一郎 昭和九・三・一日發行	高等實踐商業書式	下	、一八

教科書文庫

4

670

32-1933

0130449263

資料室

昭和八年 一月十二日 文部省檢定済 高等小學校 商業科覽彙出

高等小學

簿記書

田中滿三 著

規
乞
御
採
用

広島大学図書

0130449263



1

東京 彰文館發行

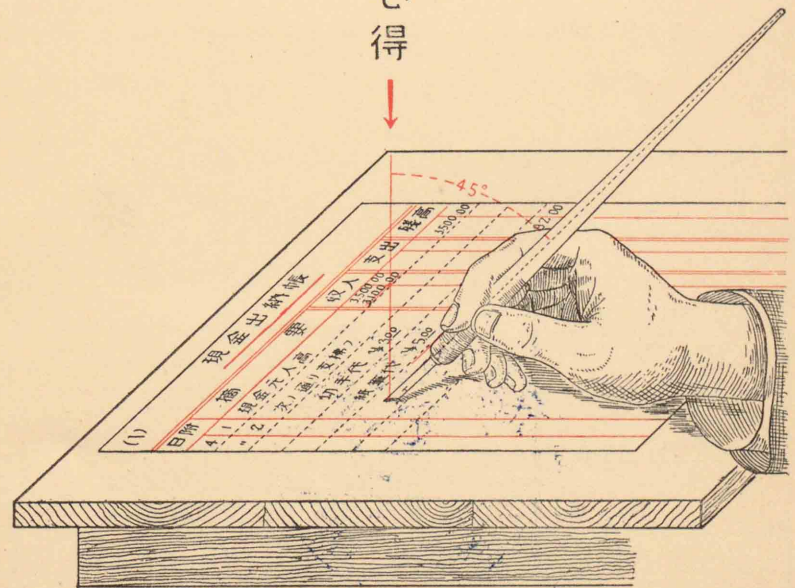


広島大学図書

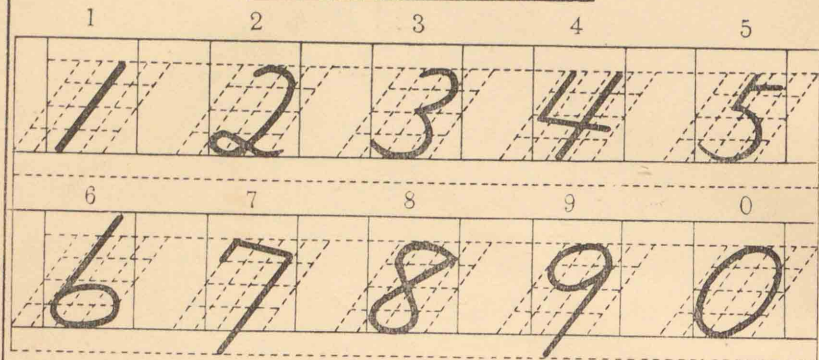
0130449263



記帳心得



アラビア数字標準字體

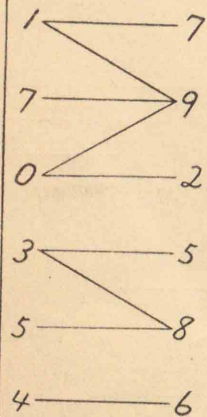


紛らはしく

1 2 3 4 5 6 7 8 9 0

なり易き数字

6 7 8 9 0



2	3	4	5	7	8	9	
8	2	1	0	4	5	7	
1	4	3	8	7	2	6	4
2	0	0	4	3	2	1	
3	5	8	8	3	7	2	
5	9	6	6	7	9	0	8
4	6	1	3	9	2		
1	9	2	4	5			
4	5	7	6	8	7	0	

(貯金局撰定)

卷 一 目 次

第一課	總 論	1
第二課	記帳心得	4
第三課	小遣帳	6
第四課	現金出納帳	8
第五課	仕入帳及賣上帳	10
第六課	日記帳	12
第七課	元 帳	14
第八課	帳簿組織	16
	練習問題	18
	基本問題	20
第九課	決算(時期手續)	25
第十課	棚卸表	26
第十一課	資産負債表及損益計算書	28
	例題記帳の一	30
	〃 〃 二	32
	〃 〃 三	35
	〃 〃 四	38
	〃 〃 五	41

第十二課	複式簿記(財産及資本)44
第十三課	取引(意義及種類)46
第十四課	仕譯(貸借の意義)48
第十五課	貸借の平均50
	練習問題52

— 終 —



高等小學 簿記書

卷 一

第一課 總論

すべて商業を営むには先づ資本を元入し、次に之を利用し賣買によつて利益を収めてゆくのである。

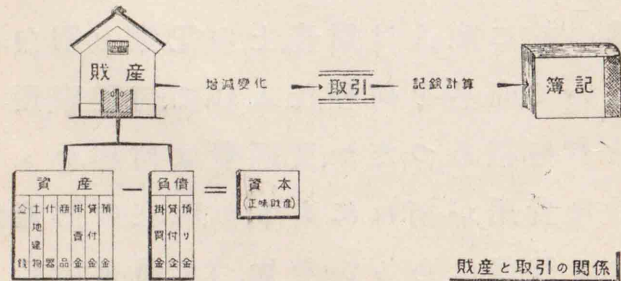
其れ故に商人は財産上の記録を明白にして置いて、商品を何程仕入れて、何程販賣して利益が何程あつたか、又経費は何程かゝるか、無駄な費用が何れにあるか、現在の財産は如何なる状態にあるかを知つて、將來の仕入高や販賣高や改良すべき點、その他の營業方針を確定すべきである。それが爲めには簿記を心得てゐなければならぬ。

簿記は財産に増減變化を與へる取引をすべて記録し、之を計算整理する方法である。

この場合の財産及取引は特別な意味がある。

財産は金錢、物品、貸金、借金などを總稱したもので、資産と負債とに大別される。

資産は金錢、土地、建物、什器、商品などは勿論掛賣金、貸付金、預金なども含む。普通に財産と云へば此れだけであるが、簿記では他人に支拂ふべき掛買金、借金、預り金などは負債と稱し、財産の一部に數へる。この資産から負債を差引いた正味の財産を資本と云ふ。



財産と取引の関係

取引 簿記で云ふところの取引とは財産の増減變化することを意味する。例へば利子として受取つた金は財産の増加であつて、

給料として支拂つた金は財産の減少である、又商品を販賣して現金を受取れば商品が現金に變つたのであるから財産の變化である。

其れ故に賣買や貸借などについて約束をしても財産に變動を與へない限りは取引にはならない、これに反して現金を紛失したり家屋を燒失したりする場合には財産に變動を與へたのであるから取引になる。

簿記の種類 簿記は其の記録の方法によつて當座帳や大福帳などを用ひる單式簿記と仕譯帳や元帳など用ひる複式簿記とがある、又その用途によつて商業簿記、銀行簿記、工業簿記、農業簿記、家計簿記、官廳簿記などがある。

然し各種の簿記は形式上に於てこそ多少異つてゐるが其の根本になる原則は同じである、商業簿記は各種の簿記の基礎になるもので、これを學べば簿記の原則を覚え、他の簿記にも應用するところが出来る。

第二課 記帳心得 (口繪参照)

帳簿は誰れが見ても容易に解るやうに親切に丁寧を書いて明瞭且つ整然たる帳簿にして置かねばならない。其れについて是非心得て置べき大切な事を次にあげる。

- 1) 帳簿は左から右に書いて行くこと。
- 2) 字の大きさ、大字は一行の約三分の二、小字は一行の約二分の一。
- 3) 文字は片假名楷書又は行書で書くこと
- 4) 一二三十の數字は壹貳參拾の字を用ひること。
- 5) 運用數字は三位毎にコンマ(,)で區切ること。
- 6) 記帳する場合に用ひる略字。

¥	Yen	圓の略字
@	At	に付. 又は替
#	Number	番號. 第何號
✓	Check, mark	轉記又は對照の符號
„	Ditto	同上の符號
%	Percent	百分率

- 7) 帳簿の各頁には必ず頁數を打つこと。
- 8) 一取引は成るべく二頁にわたらないこと。其れが爲めには頁の終りに近づいたときは見計らつて行間が不足ならば次の頁に次の形式によつて移すのである。

次葉へ	1,752 00	摘要	金額
		前葉ヨリ	1,752 00

又其の頁に餘白が出来たならば赤線で摘要欄を横切つて斜線を引いて後から書入れることの出来ないやうにして置く。

- 9) 誤字を書いたときは其の誤字を赤線二本で消して其の上に訂正した字を書き入れる。文字は其の字だけを訂正すればよいが、數字は其の數の全部を消して書き改めなければならない。
- 10) 文字や數字を小刀や消ゴムで消したり帳簿の用紙を切り取つてはならない。

第三課 小遣帳

記帳心得に従つて4月分の小遣帳を記入してみやう。

- 1日 父より本月分の小遣参圓を頂戴す。
- 2日 山田君と一緒に遠足をする。パン拾五錢其の他拾錢を費ふ。
- 3日 母より學用品買入のため壹圓五拾錢を受取る。
- 5日 壹册拾五錢の雜記帳参册、壹帖参錢の半紙貳帖を買ふ。
- 6日 鉛筆壹打を買ひ貳拾四錢支拂ふ。
- 同日 圖畫用の繪具、筆洗、繪筆を買求め代金七拾五錢を支拂ふ。
- 10日 運動靴壹足代五拾錢を支拂ふ。
- 18日 クラス會を行ふ。會費貳拾五錢
- 20日 五月號少年俱樂部を買ふ。五拾錢
- 27日 葉書拾枚及参錢切手拾枚を買ふ。
- 30日 七拾錢を郵便貯金として預け入る。

小遣帳

日附	摘要	收入	支出	残高
4 1	父ヨリ本月分小遣トシテ	3 00		3 00
2	山田君ト遠足シテ次ノ通り支拂フ			
	パン ￥0.15			
	其ノ他 " 0.10		25	2 75
3	母ヨリ學用品買入ノタメ	1 50		4 25
5	雜記帳参册代 @ ￥0.15		45	3 80
	半紙貳帖代 @ " 0.03		06	3 74
6	鉛筆壹打代		24	3 50
"	圖畫用具類ノ代		75	2 75
10	運動靴代		50	2 25
18	クラス會費		25	2 00
20	五月號少年俱樂部代		50	1 50
27	葉書拾枚参錢切手拾枚代		45	1 05
30	郵便貯金ヲスル		70	35
	手許有高		35	
		4 50	4 50	
5 1	繰越	35		35

締切法 最後の残高を手許有高として支出欄に朱記し、收入支出の合計金額が一致すればよい、手許有高は翌日附で繰越として收入欄に黒記する。

第四課 現金出納帳

現金出納帳 は取引の内で現金の収入支出だけを記入する帳簿である。

記入事項

- 1) 日附
- 2) 収入支出の事由(之を摘要と云ふ)
- 3) その金額
- 4) その日の残高(手許有高)

その日の残高は現金の手許有高と毎日引合せて計算の正確を計らなければならない。

締切 毎日又は毎月の残高を支出欄に朱記して収入支出の兩欄をそれぞれ合計する。その金額が同じであれば計算は正しいのである。そこで兩欄の下に二重の赤線を引く。

それから黒色でその翌日の日附で「繰越」又は決算であれば「前期繰越」として収入欄へ手許有高の金額を書入れる。

現金出納帳

日附	摘要	収入	支出	残高
5 1	資本金元入高	1,000 00		1,000 00
" 2	造作代金		150 00	850 00
" "	營業用什器代金		100 00	750 00
" 3	田中商店カラ商品買入代金		570 00	180 00
" 10	現金小賣高	365 00		545 00
" "	中島商店へ商品賣渡代金	420 00		965 00
" 20	現金小賣高	315 00		1,280 00
" "	大村商店カラ掛賣代金内入	120 00		1,400 00
" 25	大阪屋商店へ掛買代金支拂		400 00	1,000 00
" "	田中商店へ掛買代金内拂		300 00	700 00
" 31	本月分營業費支拂			
	家賃 ¥ 20.00			
	雜費 " 10.00		30 00	670 00
	手許有高		670 00	
		2,220 00	2,220 00	
6 1	繰越	670 00		670 00

(基本問題廿頁参照)

第五課 仕入帳及賣上帳

仕入帳 は商品を仕入れる度毎に 1)日附 2)仕入先 3)代金支拂の方法 4)商品名、數量、單價 5)仕入金額及び仕入に要した費用、例へば運賃、荷造費等を書入れるものである、仕入商品の一部を返却又は値引した時にはその旨を朱記する、同時に商品を二種以上仕入れた時には個々の金額を内譯欄に、而して合計額を金額欄に記入する。

締切 は月末又は決算の時に金額欄を合計して行ふ、朱記があれば先づ黒記した金額を合計し次に朱記した金額を差引いて其の残高を書く。

賣上帳 は商品を賣上げた^{たび}度毎に記入するもので商品の一部が返却又は値引された時は其の旨を朱記する、販賣に要した配達賃、荷造費等はこの帳簿には記入しない。

締切は仕入帳と同様である。

仕入帳

日附	摘	要	内	譯	金	額
5 3	田中商店	現金				
	越後米	30石 @ ¥ 19.-			570	00
" "	大阪屋商店	掛				
	武藏米	20石 @ ¥ 20.-			400	00
" 15	田中商店	掛				
	越後米	50石 @ ¥ 19.-	950	00		
	武藏米	20 " " " 20.-	400	00	1,350	00
" 17	田中商店	返 戻				
	越後米	20石 @ ¥ 19.-			380	00
					1,940	00

賣上帳

日附	摘	要	内	譯	金	額
5 10	小賣高	現金				
	越後米	10石 @ ¥ 24.-	240	00		
	武藏米	5 " " " 25.-	125	00	365	00
" "	中島商店	現金				
	越後米	20石 @ ¥ 21.-			420	00
" 12	大村商店	掛				
	武藏米	10石 @ ¥ 22.-			220	00
" 20	小賣高	現金				
	越後米	15石 @ ¥ 21.-			315	00
					1,320	00

(基本問題廿頁参照)

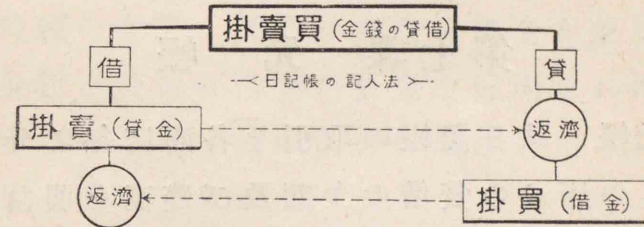
第六課 日記帳

日記帳 は商品の掛賣買や金銭の貸借を取引順に記入して日々の貸借を明にし、元帳へ轉記の材料とする帳簿である。又當座帳とも云ふ。

記入事項 1) 日附 2) 貸借の相手方の商店名又は氏名 3) 借と貸の區別 4) 貸借の事由 5) 金額

借と貸 簿記でいふ借と貸とは相手方を主として考へたものである。即ち相手方が當方に対して借となつてゐるか貸となつてゐるかの意味で自分が借りてゐるか貸してゐるか云ふわけでない。重なる取引について例を次に示す。

日記帳の借と貸との記入法	
借	貸
1. 商品を掛賣したとき	1. 商品を掛買したとき
2. 掛買代を支拂つたとき	2. 掛賣代を受取つたとき
3. 現金を貸したとき	3. 現金を借りたとき
4. 借入金を返したとき	4. 貸付金を受取つたとき



日記帳

日附	摘要	元丁	金額
5 3	大阪屋商店 (貸)	1	
	武藏米 20石掛買		400 00
" 12	大村商店 (借)	2	
	武藏米 10石掛賣		220 00
" 15	田中商店 (貸)	3	
	越後米 50石掛買		
	武藏米 20 " "		1,350 00
" 17	田中商店 (借)	3	
	越後米 20石返戻		380 00
" 20	大村商店 (貸)	2	
	掛賣代金内入金		120 00
" 25	大阪屋商店 (借)	1	
	掛買代金支拂		400 00
" "	田中商店 (借)	3	
	掛買代金内拂		300 00
			3,170 00

(基本問題廿頁参照)

第七課 元帳

元帳 は日記帳の取引を各商店毎に分けて其の店この貸借の金額及び残高を明白にするものである、又大福帳とも云ふ。

轉記法

- 1) 日記帳の商店名又は人名を元帳の欄外の中央に書いて口座を作る。
- 2) 日記帳の借こあるは元帳の其の口座の借方へ、貸こあるは其の貸方へ記入する。
- 3) 記入事項は日附、摘要、金額及び日丁欄へ日記帳の頁數を記入する。
- 4) 轉記が終れば日記帳の元丁欄へ元帳の頁數を書いて轉記済の證據にする、又これは後日になつて取調べるさき役に立つ。

締切法 口座毎に借方と貸方との合計を比較し金額の少い方へ、少いだけを繰越として朱記し、貸借を平均して締切り翌日附で繰越す、但し金額が同じなれば締切だけでよい。

口座の見方 借方は貸金か借金を返済した金額で、貸方は借金か貸金を返済された金額である。それ故に借方の残は貸金で、貸方の残は借金である。

元 帳

		(借方)		大阪屋商店		(貸方)					
日附	摘要	日丁	金額	日附	摘要	日丁	金額				
5	25	現金支拂	1	400	00	5	3	商品掛買	1	400	00

		大村商店		2							
日附	摘要	日丁	金額	日附	摘要	日丁	金額				
5	12	商品掛賣	1	220	00	5	20	現金内入	1	120	00
						"	31	繰越	レ	100	00
										220	00
6	1	繰越	レ	100	00						

		田中商店		3							
日附	摘要	日丁	金額	日附	摘要	日丁	金額				
5	17	商品返戻	1	380	00	5	15	商品掛買	1	1,350	00
"	25	現金内拂	"	300	00						
"	31	繰越	レ	670	00						
										1,350	00
6	1	繰越	レ	670	00						

(基本問題廿頁参照)

何々商店 (別式)

日附	摘要	日丁	借方	貸方	借及貸	残高

第八課 帳簿組織(單式) (現金出納帳・仕入帳 賣上帳・日記帳・元帳)

商人は自分の營業狀態に對して、どんな帳簿類を使用して會計を整理するのが最も良いかといふ事を十分に考へる必要がある。

營業の割合に不相應な多くの帳簿を使用することは手數がかゝり効果少く、又餘り簡單過ぎては種々の不便を感ずるであらう。

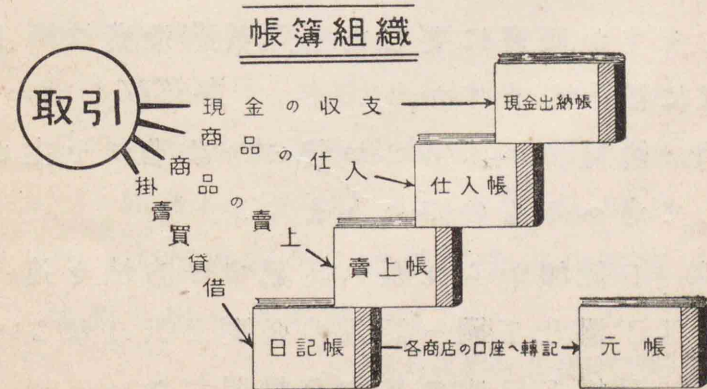
普通の商店では毎日の現金の收支を明かにして不正事を豫め防ぐために現金出納帳を必要とするであらう、又商品の仕入や賣上について詳しい事柄を知るためには仕入帳も賣上帳も入用であらう。猶ほ毎日の掛賣や掛買については其の度毎に相手方の氏名や金額日時などを書き留めて置く日記帳も必要であらう。而して其れを取引先別に記入して他人との貸借關係を明かにする元帳も亦必要であらう。

以上五冊の帳簿の外にも種々の帳簿例へ

ば受取手形帳や支拂手形帳などを使つて自分に都合のよい帳簿組織を工夫することが大切である。

取引と帳簿の關係

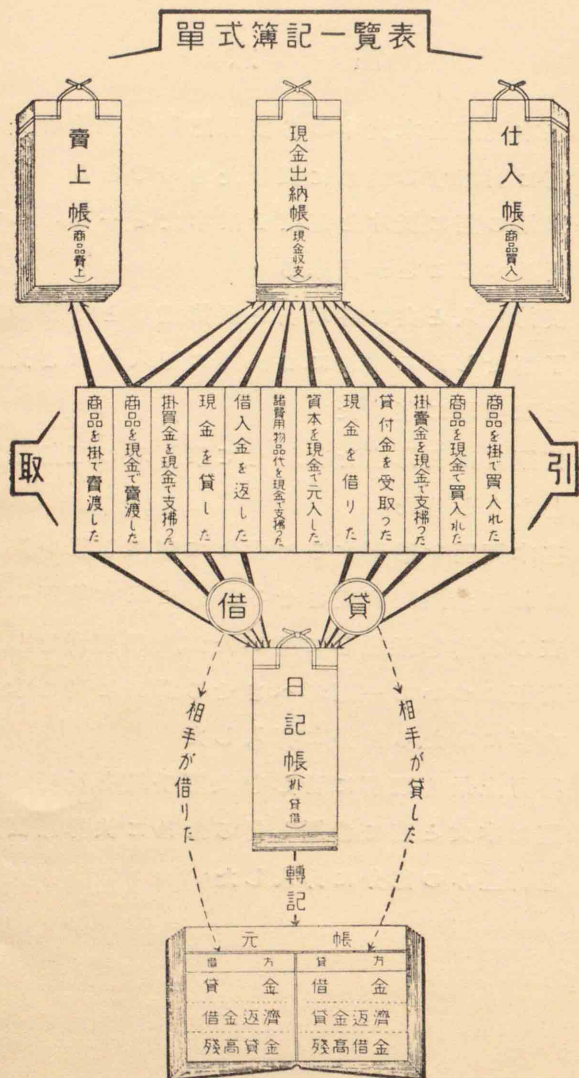
基本取引例	記入帳簿
1) 商品を掛で買入れた	仕入帳・日記帳(元帳)
2) 商品を現金で買入れた	仕入帳・現金出納帳
3) 掛買金を現金で支拂つた	現金出納帳・日記帳(元帳)
4) 資本を現金で元入した	現金出納帳
5) 諸費用・物品代を現金で支拂つた	現金出納帳
6) 商品を掛で賣渡した	賣上帳・日記帳(元帳)
7) 商品を現金で賣渡した	賣上帳・現金出納帳
8) 賣掛金を現金で受取つた	現金出納帳・日記帳(元帳)



練習問題

- 1) 資産と負債と資本とを説明して其の關係について述べなさい。
- 2) 簿記で云ふ取引の意味を述べて普通の意味で取引にならないが簿記では取引になるものを二三例をあげなさい。
- 3) 記帳心得十ヶ條をあげなさい。
- 4) 記帳に使ふ略字と其意味を述べなさい。
- 5) 現金出納帳の締切法を説明なさい。
- 6) 仕入商品を返却又は値引したときの記入法を述べなさい。
- 7) 仕入商品の運賃、荷造費は仕入帳に記入しますか、販賣に要した配達賃、荷造費は賣上帳に記入しますか。
- 8) 簿記でいふ借と貸とは誰れを主として考へるものでありますか。
- 9) 日記帳から元帳へ轉記する方法を述べて元丁欄、仕丁欄へ記入の必要を云ひなさい。
- 10) 元帳の口座の見方を説明なさい。

- 十日 中島商店へ次の通り商品を現金にて賣渡す (現金出納帳・賣上帳)
- | | | | |
|-----|-----|-----------|----------|
| 越後米 | 20石 | @ ¥ 21.00 | ¥ 420.00 |
|-----|-----|-----------|----------|
- 十二日 大村商店へ次の通り商品を掛にて賣渡す (賣上帳・日記帳・元帳)
- | | | | |
|-----|-----|-----------|----------|
| 越後米 | 10石 | @ ¥ 22.00 | ¥ 220.00 |
|-----|-----|-----------|----------|
- 十五日 田中商店から次の通り商品を掛にて買入れる (仕入帳・日記帳・元帳)
- | | | | |
|-----|-----|-----------|------------|
| 越後米 | 50石 | @ ¥ 19.00 | ¥ 950.00 |
| 武藏米 | 20石 | " " 20.00 | " 400.00 |
| | | 合計 | ¥ 1,350.00 |
- 十七日 田中商店から仕入れたる商品の内越後米20石は品質相違せるによつて返戻す (仕入帳・日記帳・元帳)
- | | | | |
|-----|-----|-----------|----------|
| 越後米 | 20石 | @ ¥ 19.00 | ¥ 380.00 |
|-----|-----|-----------|----------|
- 廿日 現金小賣高次の通り (現金出納帳・賣上帳)
- | | | | |
|-----|-----|-----------|----------|
| 越後米 | 15石 | @ ¥ 21.00 | ¥ 315.00 |
|-----|-----|-----------|----------|
- 同日 大村商店から掛賣代金の内壹百貳拾圓を現金にて受取る (現金出納帳・日記帳・元帳)



基本問題

昭和 年五月

- 一日 現金壹千圓を以て白米小賣商を開始する (現金出納帳)
- 二日 店舗の改造及諸設備を行ひ、其の造作代金壹百五拾圓を現金にて支拂ふ (現金出納帳)
- 同日 營業用の金庫、机、椅子などの什器を買入れ此の代金壹百圓を現金にて支拂ふ (現金出納帳)
- 三日 田中商店から次の通り商品を現金にて買入る (現金出納帳・仕入帳)
- | | | | |
|-----|-----|-----------|----------|
| 越後米 | 30石 | @ ¥ 19.00 | ¥ 570.00 |
|-----|-----|-----------|----------|
- 同日 大阪屋商店から次の通り商品を掛にて買入る (仕入帳・日記帳・元帳)
- | | | | |
|-----|-----|-----------|----------|
| 武藏米 | 20石 | @ ¥ 20.00 | ¥ 400.00 |
|-----|-----|-----------|----------|
- 十日 現金小賣高次の通り (現金出納帳・賣上帳)
- | | | | |
|-----|-----|-----------|----------|
| 越後米 | 10石 | @ ¥ 24.00 | ¥ 240.00 |
| 武藏米 | 5石 | " " 25.00 | " 125.00 |
| 合計 | | | ¥ 365.00 |

- 十日 中島商店へ次
て賣渡す (現金出納帳)
- | | |
|-----|-----|
| 越後米 | 20石 |
|-----|-----|
- 十二日 大村商店へ次
賣渡す (賣上帳・日記帳)
- | | |
|-----|-----|
| 越後米 | 10石 |
|-----|-----|
- 十五日 田中商店から
て買入れる (仕入帳)
- | | |
|-----|-----|
| 越後米 | 50石 |
| 武藏米 | 20石 |
- 十七日 田中商店から
越後米20石は品質
戻す (仕入帳・日記帳・元帳)
- | | |
|-----|-----|
| 越後米 | 20石 |
|-----|-----|
- 廿日 現金小賣高次
- | | |
|-----|-----|
| 越後米 | 15石 |
|-----|-----|
- 同日 大村商店から
拾圓を現金にて受

基本問題

昭和 年五月

一日 現金壹千圓を以て白米小賣商を開始する(現金出納帳)

二日 店舗の改造及諸設備を行ひ、其の造作代金壹百五拾圓を現金にて支拂ふ(現金出納帳)

同日 營業用の金庫、机、椅子などの什器を買入れ此の代金壹百圓を現金にて支拂ふ(現金出納帳)

三日 田中商店から次の通り商品を現金にて買入る(現金出納帳・仕入帳)

越後米 30石 @ ¥ 19.00 ¥ 570.00

同日 大阪屋商店から次の通り商品を掛にて買入る(仕入帳・日記帳・元帳)

武藏米 20石 @ ¥ 20.00 ¥ 400.00

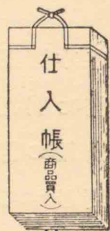
十日 現金小賣高次の通り(現金出納帳・賣上帳)

越後米 10石 @ ¥ 24.00 ¥ 240.00

武藏米 5石 " " 25.00 " 125.00

合計 " 365.00

覽表



引

貸

相手が貸した

現金
返済
借金

十日 中島商店へ次の通り商品を現金にて賣渡す(現金出納帳・賣上帳)

越後米 20石 @ ¥ 21.00 ¥ 420.00

十二日 大村商店へ次の通り商品を掛にて賣渡す(賣上帳・日記帳・元帳)

越後米 10石 @ ¥ 22.00 ¥ 220.00

十五日 田中商店から次の通り商品を掛にて買入る(仕入帳・日記帳・元帳)

越後米 50石 @ ¥ 19.00 ¥ 950.00

武藏米 20石 " " 20.00 " 400.00

合計 " 1,350.00

十七日 田中商店から仕入れたる商品の内越後米20石は品質相違せるによつて返戻す(仕入帳・日記帳・元帳)

越後米 20石 @ ¥ 19.00 ¥ 380.00

廿日 現金小賣高次の通り(現金出納帳・賣上帳)

越後米 15石 @ ¥ 21.00 ¥ 315.00

同日 大村商店から掛賣代金の内壹百貳拾圓を現金にて受取る

(現金出納帳・日記帳・元帳)

廿五日 大阪屋商店へ掛買代金四百圓を現金にて支拂ふ(現金出納帳・日記帳・元帳)

同日 田中商店へ掛買代金の内參百圓を現金にて支拂ふ(現金出納帳・日記帳・元帳)

卅一日 本月分營業費次の通り現金にて支拂ふ(現金出納帳)

家賃 ¥ 20.00

雜費 " 10.00

同日 本日決算を行ふ棚卸次の通り

(商品)

越後米 15石 @ ¥ 19.00 ¥ 285.00

武藏米 25 " " " 20.00 " 500.00

合計 " 785.00

(什器)

買入原價 ¥ 100.00の内壹割を減價す

現在價格 " 90.00

(造作)

造作代 ¥ 150.00の内貳割を減價す

現在價格 ¥ 120.00

棚卸表

昭和 年 月 日

摘要	内訳	金額
商品	現在高を調査し仕入價格又は時價を評價し	
什器造作	買入價格	
	減價見積額	買入價格から減價見積額を差引いた金額

資産負債表

昭和 年 月 日

資産	負債及資本
現金出納帳の現金手許有高	元帳の貸方の残高(掛買金)
元帳の借方の残高(掛賣金)	資本金現在高
棚卸表の資産(商品什器造作)の金額	資本金現在高
	引
	元入高
	純益高

損益計算書

自昭和 年 月 日至昭和 年 月 日

損失ノ部	利益ノ部
棚卸表の減價見積高	賣上帳の賣上總高
現金出納帳の諸費用	引
	仕入帳の仕入總高
	引
	棚卸表の商品棚卸高
当期純益金	賣買利益

1. 基本問題は本文に引用する為
2. 引用の際に紙片を対照することが
3. 帳簿記入と共に了解せしめる為を取引順に集め例題毎に帳簿名を易ならしめた
4. 基本問題を學習すれば参照し研表の圖解を添附問題について一の影にあたる部
5. 學習上最も理解際に本文と直にを折疊みの部分

注 意

1. 基本問題は本文中の各帳簿記入例を説明する際に引用する爲めに設けたものである
2. 引用の際に紙片を延ばせば本文と一目にして對照することが出来る
3. 帳簿記入と共に各取引と帳簿組織との關係を了解せしめる爲めに各帳簿に記入すべき例題を取引順に集めた
例題毎に帳簿名を書添えて學習者の理解を容易ならしめた
4. 基本問題を學習するに當りて理解し難い點があれば參照し研究させる爲めに單式簿記一覽表の圖解を添附して置いたが、學習者をして問題について一應考へさせる爲めに特に本文の影にあたる部分に挿入した
5. 學習上最も理解に苦しむ決算手續を説明する際に本文と直に參照し得るために決算諸圖解を折疊みの部分に挿入した

第九課 決 算 (時期・手續)

決算とは一ヶ月、半ケ年、一ケ年の間に自分の財産がどんな状態に變化したかを調べることである。即ち 1) 其の營業期間に生じたる損益の金額を計算し 2) 決算日に於ける資産負債及び資本の状態を明かにし 3) 諸帳簿を締切り次期の取引と區別することである

決算の時期

一般に六月又は十二月に決算するが此の時期が決算をするのに都合がよいからである。小賣商店は大概毎月末に行ふ。商法の規定では一ケ年に少とも一度は決算をしなければならない。

決算の手續

決算は次の順序で行ふ

- 1) 諸帳簿の締切
- 2) 棚卸表の作成
- 3) 資産負債表及び損益計算書の作成

金額

現在高を調査し仕入
価格又は時價(時價)買入價格から減價見
積額を差引いた金額

及 資 本

の残高(掛買金)

現 在 高

資本金現在高

引
元 入 高||
純 益 高

ノ 部

の賣上總高

引
仕入帳の仕入總高引
棚卸表の商品棚卸高||
利 益

第十課 棚卸表

棚卸とは決算日に於て商品、土地、家屋、什器、造作、公債、株券などの資産の有高を實際に調べて其の價格を定めることを云ふ。之を記入する表を棚卸表と名付ける。

棚卸の目的は數量の實地調査と現在の價格の見積りである。現金掛買金、掛賣金などの現在高は現金出納帳や元帳で知ることが出来るが、商品、土地、家屋、什器、公債、株券などの現在の數量や價格は帳簿によつて知ることが難しい。又年月を經過すると商品その他のものは目耗や破損、紛失などを生じて數量や價格に變動を起す場合が多い。

それ故に實地に調べて棚卸表を作成する必要がある。

棚卸の價格

- 1) 商品は仕入價格によるのが普通である
但し時價が之よりも低いときは其の價

- 格で見積る。
- 2) 破損品や店晒たなざらしなどは其れだけ見積價格を下げて付ける。
 - 3) 家屋、什器、造作などは其の使用し得る年數に應じて毎年又は每期何程かの減價を見積つて其れだけ引去つたものを價格とする

棚卸表

昭和 年 5 月 31 日

摘 要	内 譯	金 額
商 品 現在高		
越後米 15石 @ ¥ 19.-	285 00	
武藏米 25 " " " 20.-	500 00	785 00
什 器 金庫、机、椅子買入高	100 00	
減價見積高 10%	10 00	90 00
造 作 店構へ等の諸設備	150 00	
減價見積高 20%	30 00	120 00
		995 00

(基本問題及廿三頁の圖解参照)

第十一課 資産負債表及損益計算書

資産負債表とは決算日に於ける資産負債の現在高を調べ現在の資本金を明かにし、其の営業期間の純損益を算出したもので財産表又は決算表とも云ふ、この表を作るには資産の部に1)現金出納帳の手許有高2)元帳口座の借方残高(掛賣金)3)棚卸表の商品、建物、什器、造作の價格を記入し、負債の部に1)元帳口座の貸方残高(掛買金)2)現在の資本金を記入する。現在の資本金と元入資本の差額

資産負債表

昭和 年 5 月 31 日

資 産	金 額	負債及資本	金 額
現金 手許有高	670 00	買掛金 一口	670 00
賣掛金 一口	100 00	資本金	1,095 00
商品 棚卸高	785 00	現在高 ¥ 1,095.00	
什器 "	90 00	元入高 " 1,000.00	
造 作	120 00	純 益 " 95.00	
	1,765 00		1,765 00

(基本問題及廿三頁圖解参照)

が純益である。

營業が小規模で帳簿の内容が簡単な場合には諸帳簿や棚卸表等から損益計算書を作る事が出来るが精密なものでない、故に單式簿記では普通、資産負債表だけ作る。

損益計算書を作るには損失の部に什器、造作等の減價、家賃、雜費の損失を記入し利益の部に

$$\text{賣上高} - (\text{仕入高} - \text{棚卸高}) = \text{賣買損益}$$

を記入し兩部の差額を當期純益として損失の部に、又純損なれば利益の部に朱記する。

損益計算書

自昭和 年 5 月 1 日 至昭和 年 5 月 31 日

損 失 ノ 部	金 額	利 益 ノ 部	金 額
什器 減價	10 00	賣上高	1,320 00
造作 減價	30 00	仕入高 ¥ 1,940.00	
家賃	20 00	棚卸高 " 785.00	1,155 00
雜費	10 00	賣買利益	165 00
當期純益	95 00		
	165 00		165 00

(基本問題及廿三頁圖解参照)

例題記帳の一

帳簿組織 { 現金出納帳、仕入帳、賣上帳
 日記帳、元帳

昭和 年六月

- 一日 現金壹千圓を元入して白米商を始む
(現)
- 二日 自轉車、荷車、机、椅子などの營業用什器
を買入れ、代金參百圓を現金で支拂ふ(現)
- 三日 大島商店から次の通り現金で仕入れ
る(現、仕)
 - 貳等米 貳拾石 貳拾圓替 四 百 圓
- 七日 現金小賣高(現賣)
 - 貳等米 參 石 貳拾參圓替 六 拾 九 圓
- 十日 島本商店へ掛で賣渡す(賣、日、元)
 - 貳等米 拾參石 貳拾貳圓替 貳百八拾六圓
- 十八日 本山商店から掛で仕入れる(仕、日、元)
 - 壹等米 拾四石 貳拾參圓替 參百貳拾貳圓
- 廿一日 越後屋へ掛賣する(賣、日、元)
 - 壹等米 拾 石 貳拾五圓替 貳百五拾圓

- 廿五日 武藏屋へ掛賣する(賣、日、元)
 - 壹等米 參石 貳拾五圓替 七 拾 五 圓
 - 貳等米 貳石 貳拾貳圓替 四 拾 四 圓
 - 合 計 百 拾 九 圓
- 廿七日 島本商店から掛賣代金貳百八拾六
圓を現金にて受取る(現、日、元)
- 卅 日 本山商店へ掛買代金の内貳百五拾
圓を現金にて支拂ふ(現、日、元)
- 同 日 本月分諸入費を現金にて支拂ふ(現)
 - 内 譯
 - 家 賃 拾 五 圓
 - 給 料 五 圓
 - 雜 費 五 圓
 - 合 計 貳拾五圓
- 同 日 決算を行ふ、棚卸次の通り
(商 品)
 - 壹等米 壹石 貳拾參圓替 貳 拾 參 圓
 - 貳等米 貳石 貳拾圓替 四 拾 圓
 (什 器)
 - 自轉車其の他の營業用什器(減價壹割)
 - 見積價格 貳百七拾圓

例題記帳の二

昭和 年七月

- 一日 現金貳千五百圓を元入して小麥粉商
を始む(現)
- 二日 開店披露の廣告費其他雜費四拾五圓
を現金で支拂ふ(現)
- 三日 次の營業用什器を現金で買入れる(現)
- | | | | |
|--------|--|---|--------|
| 電話 | | ¥ | 450.00 |
| 金庫自轉車等 | | " | 175.00 |
- 四日 山田商店より次の通り現金で仕入れ
る(現仕)
- | | | | | | |
|--------|-------|-----|------|---|--------|
| 小麥粉 青星 | 225 袋 | @ ¥ | 3.60 | ¥ | 810.00 |
| " 赤星 | 75 " | " " | 3.40 | " | 255.00 |
- 五日 本日現金小賣高(現賣)
- | | | | | | |
|--------|------|-----|------|---|--------|
| 小麥粉 青星 | 25 袋 | @ ¥ | 4.00 | ¥ | 100.00 |
| " 赤星 | 30 " | " " | 3.80 | " | 114.00 |
- 八日 三河屋へ次の通り掛で賣渡す(賣、日、元)
- | | | | | | |
|--------|-------|-----|------|---|--------|
| 小麥粉 青星 | 200 袋 | @ ¥ | 4.00 | ¥ | 800.00 |
|--------|-------|-----|------|---|--------|
- 同日 中村商店より次の通り買入れ代金の

内半額は現金拂、残額は掛とす(現、仕、元、日)

- | | | | | | |
|--------|-------|-----|------|---|--------|
| 小麥粉 青星 | 250 袋 | @ ¥ | 3.60 | ¥ | 900.00 |
| " 赤星 | 250 " | " " | 3.40 | " | 850.00 |
- 十一日 西山商店へ次の通り賣渡し代金の
内五百圓は現金で受取り残額は掛とす
(現賣、日、元)
- | | | | | | |
|--------|-------|-----|------|---|--------|
| 小麥粉 青星 | 100 袋 | @ ¥ | 4.00 | ¥ | 400.00 |
| " 赤星 | 125 " | " " | 3.80 | " | 475.00 |
- 十五日 三河屋へ掛で賣渡す(賣、日、元)
- | | | | | | |
|--------|-------|-----|------|---|--------|
| 小麥粉 青星 | 100 袋 | @ ¥ | 4.00 | ¥ | 400.00 |
| " 赤星 | 50 " | " " | 3.80 | " | 190.00 |
- 十八日 山田商店より掛で買入れる(仕、日、元)
- | | | | | | |
|--------|-------|-----|------|---|----------|
| 小麥粉 青星 | 400 袋 | @ ¥ | 3.60 | ¥ | 1,440.00 |
|--------|-------|-----|------|---|----------|
- 廿日 本日現金小賣高次の通り(現賣)
- | | | | | | |
|--------|------|-----|------|---|-------|
| 小麥粉 青星 | 10 袋 | @ ¥ | 4.00 | ¥ | 40.00 |
| " 赤星 | 15 " | " " | 3.80 | " | 57.00 |
- 廿五日 橋本商店へ次の通り賣渡し代金の
内五百圓は現金で受取り残額は掛とす
(現賣、日、元)
- | | | | | | |
|--------|-------|-----|------|---|--------|
| 小麥粉 青星 | 150 袋 | @ ¥ | 4.00 | ¥ | 600.00 |
|--------|-------|-----|------|---|--------|

廿九日 掛賣代金次の通り現金にて受取る

(現、日、元)

三河屋より ¥1,000.00

西山商店より " 375.00

卅日 掛買代金次の通り現金にて支拂ふ

(現、日、元)

山田商店へ ¥1,000.00

中村商店へ " 500.00

卅一日 本月分諸入費次の通り支拂ふ(現)

家賃 ¥ 40.00

給料 " 35.00

店員賄費 " 50.00

雑費 " 25.00

同日 本日決算を行ふ、棚卸次の通り

(商品)

小麦粉 青星 290袋 @ ¥ 3.60 ¥1,044.00

" 赤星 105 " " " 3.40 " 357.00

(什器)

電話 ¥ 450.00

金庫其他(減價見積 ¥ 25.00) " 150.00

例題記帳の三

昭和 年十月

一日 現金參千圓を元入して砂糖卸商を始む。

二日 營業用家屋壹棟を買入れ、代金七百五十圓を現金にて支拂ふ。

三日 自轉車その他の什器を買入れ代金壹百貳拾五圓を現金にて支拂ふ。

四日 現金壹千圓を住友銀行へ當座預金す

五日 臺灣精糖會社より次の通り買入れ、代金の内壹千圓は現金にて支拂ふ。

白砂糖 50俵 @ ¥ 19.30 ¥ 965.00

中白 50 " " " 19.00 " 950.00

七日 山下商店へ次の通り掛にて賣渡す。

白砂糖 25俵 @ ¥ 19.80 ¥ 495.00

中白 25 " " " 19.50 " 487.50

九日 本日現金小賣高。

白砂糖 5俵 @ ¥ 19.80 ¥ 99.00

中白 5 " " " 19.50 " 97.50

十三日 住友銀行より當座預金七百五拾圓を引出す。

十四日 森商會より次の通り買入れ代金の内七百五拾圓は現金にて支拂ふ。

双 目	50 俵	@ ¥ 14.20	¥ 710.00
天 光	50 "	" " 12.00	" 600.00

十八日 河口商店へ次の通り賣渡し、代金の内五百圓は現金にて受取る。

双 目	25 俵	@ ¥ 14.60	¥ 365.00
天 光	25 "	" " 12.50	" 312.50

廿三日 岡本商店へ次の通り掛にて賣渡す。

白砂糖	10 俵	@ ¥ 19.80	¥ 198.00
天 光	15 "	" " 12.50	" 187.50

廿五日 山下商店へ次の通り現金にて賣渡す。

中 白	5 俵	@ ¥ 19.50	¥ 97.50
双 目	10 "	" " 14.60	" 146.00

廿八日 掛買金次の通り現金にて支拂ふ。

森商會へ	¥ 560.00
------	----------

廿九日 掛賣金次の通り現金にて受取る。

山下商店より	¥ 982.50
岡本商店より	" 150.00

卅一日 本月分諸費用次の通り支拂ふ。

給 料	¥ 15.00
雜 費	" 10.00

同 日 本日決算を行ふ。棚卸高次の通り
(商 品)

白砂糖	10 俵	@ ¥ 19.30	¥ 193.00
中 白	25 "	" " 19.00	" 475.00
双 目	15 "	" " 14.20	" 213.00
天 光	10 "	" " 12.00	" 120.00

(什 器)

自轉車その他	買入價格	¥ 125.00
	減價貳割	" 25.00
	見積價格	" 100.00

(家 屋)

	買入價格	¥ 750.00
	減價額	" 10.00
	見積價格	" 740.00

例題記帳の四

昭和 年十一月

一日 現金參千圓を元入して醬油卸賣業を
始む。

二日 營業用家屋を買入れ、現金壹千圓を支
拂ふ。

同日 次の通り店用什器現金にて買入る。
衡器その他の什器 ¥ 125.00
電話 " 425.00

五日 大山醬油會社より次の通り現金にて
買入る。外に持込運賃拾圓現金拂

松 印	100 樽	@ ¥ 4.00	¥ 400.00
竹 "	100 "	" " 4.00	" 400.00

八日 村木商店へ次の通り現金にて賣渡す。

松 印	50 樽	@ ¥ 4.45	¥ 222.50
竹 "	50 "	" " 4.45	" 222.50

十二日 富村商會より次の通り買入れ、代金
の内七百五拾圓は現金拂、残額は掛こす。
尙ほ當店までの持込車力賃拾貳圓五拾

錢現金拂。

松 印	100 樽	@ ¥ 4.00	¥ 400.00
竹 "	50 "	" " 4.00	" 200.00
梅 "	100 "	" " 4.00	" 400.00

十五日 村木商店へ次の通り掛にて賣渡す

松 印	50 樽	@ ¥ 4.45	¥ 222.50
梅 "	50 "	" " 4.45	" 222.50

外に同店までの運賃五圓現金立替拂。

十九日 富村商會より次の通り掛買す。尙
ほ當店までの車力賃拾六圓現金拂。

松 印	100 樽	@ ¥ 4.00	¥ 400.00
竹 "	75 "	" " 4.00	" 300.00
梅 "	150 "	" " 4.00	" 600.00

廿三日 小川商店へ次の通り賣渡し代金の
内貳百五拾圓は現金にて受取り、残額は
掛こす。

松 印	50 樽	@ ¥ 4.45	¥ 222.50
竹 "	75 "	" " 4.45	" 333.75
梅 "	75 "	" " 4.45	" 333.75

廿五日 大井商店へ次の通り現金にて賣渡す。

松 印	25 樽	@ #	4.45	#	111.25
梅	25 "	" "	4.45	"	111.25

廿八日 掛賣金次の通り現金にて受取る。

村木商店より	#	250.00
小川商店より	"	500.00

廿九日 掛買金次の通り現金にて支拂ふ。

富村商會へ	#	500.00
-------	---	--------

卅 日 本月分諸費用次の通り支拂ふ。

給 料	#	30.00
雑 費	"	20.00

同 日 本日決算を行ふ。棚卸次の通り。

(商 品)

松 印	125 樽	@ #	4.00	#	500.00
竹	100 "	" "	4.00	"	400.00
梅	100 "	" "	4.00	"	400.00

(家 屋)

見積價格(拾五圓減價)	#	985.00
-------------	---	--------

(什 器)

衡器その他(貳拾五圓減價)	#	100.00
電 話	"	425.00

例題記帳の五

昭和 年十二月

一日 前月決算の財産を以て醤油卸賣業を引續いて營む。

二日 富田商會より次の通り買入れ、代金の内五百圓は現金拂とし残額は掛とす。尙ほ當店までの運賃拾五圓は現金にて支拂ふ。

松 印	150 樽	@ #	4.10	#	615.00
竹	150 "	" "	4.10	"	615.00

三日 勝田商店へ次の通り掛にて賣渡す。

松 印	100 樽	@ #	4.45	#	445.00
竹	100 "	" "	4.45	"	445.00

八日 大井商店へ次の通り現金にて賣渡す。

松 印	25 樽	@ #	4.45	#	111.25
竹	25 "	" "	4.45	"	111.25

十二日 大山醤油會社より次の通り買入れ、代金の内五百圓は現金拂とし残額は掛とす。尙ほ當店までの運賃拾貳圓五拾

錢現金拂。

竹 印	100 樽	@ ¥ 4.10	¥ 410.00
梅 "	150 "	" " 4.10	" 615.00

十五日 小川商店へ次の通り賣渡し代金の
内五百圓現金にて受取り残額は掛さす

竹 印	100 樽	@ ¥ 4.45	¥ 445.00
梅 "	75 "	" " 4.45	" 333.75

十八日 村木商店へ次の通り現金にて賣渡
す、尚ほ同店までの運賃五圓現金拂。

竹 印	50 樽	@ ¥ 4.45	¥ 222.50
梅 "	50 "	" " 4.45	" 222.50

廿一日 大井商店へ次の通り掛にて賣渡す

竹 印	50 樽	@ ¥ 4.45	¥ 222.50
梅 "	100 "	" " 4.45	" 445.00

廿三日 大山醬油會社より次の通り買入れ
代金の内七百五拾圓は現金拂、残額は掛
さす、尚ほ當店までの車力賃拾貳圓五拾
錢現金拂。

松 印	100 樽	@ ¥ 4.10	¥ 410.00
竹 "	125 "	" " 4.10	" 512.50
梅 "	50 "	" " 4.10	" 205.00

廿五日 村木商店へ次の通り掛にて賣渡す

松 印	100 樽	@ ¥ 4.45	¥ 445.00
竹 "	50 "	" " 4.45	" 222.50

廿七日 勝田商店へ次の通り現金にて賣る

松 印	25 樽	@ ¥ 4.45	¥ 111.25
竹 "	40 "	" " 4.45	" 178.00

廿八日 掛賣金次の通り受取る。

勝田商店より	¥ 890.00
大井商店より	" 667.50

廿九日 大山醬油會社へ掛買金支拂高 ¥ 902.50

卅一日 本月分諸費用次の通り支拂ふ。

給 料	¥ 35.00
雜 費	" 25.00

同 日 本日決算を行ふ。棚卸次の通り

(商 品)

松 印	125 樽	@ ¥ 4.10	¥ 512.50
竹 "	60 "	" " 4.10	" 164.00
梅 "	75 "	" " 4.10	" 307.50

(什 器)

電話その他	見積價格(減價 ¥ 10.00)	¥ 90.00
-------	------------------	---------

(家 屋)

	見積價格(減價 " 20.00)	" 965.00
--	------------------	----------

第十二課 複式簿記 (財産及資本)

今まで學んだ記帳法は單式簿記である。その記帳の方法は簡單で小規模の營業の帳簿としては適當してゐる。然し簿記としては極めて不完全なものである。

その缺點をあげてみるに

- 1) 記帳中に誤りがあつても見出すことが難しい。
- 2) 損益の計算をする場合でも單に資産負債表を作つて資産と負債との差額を見て之を純益又は純損の金額とするだけで何故にこの損益を生じたかを詳しく知ることが出来ない。

複式簿記は單式簿記の缺點をよく補ひ簿記として完全なものである、然し完全であるだけに記帳の内容も複雑で學習上に於て特別に注意を拂はなければならない點が多い。

財産 複式簿記も單式簿記と同様に財産といへば資産と負債との兩者を含めたことを意味する。

資産の中には物と貸金とがある。

資産 { 物……現金、土地、建物、商品、什器等
貸金……銀行預金、貸付金、掛賣金等

負債は他人からの借金である。

負債………借用金、掛買金等

資産の總額から負債の總額を差引いた残額を正味財産又は資本と云ふ。

資本について注意すべき事は簿記に於て資本を負債と同一に取扱ふことである。

何故ならば簿記に於ては資本を出す者と營業をする者とは區別して營業方は資本主から資本を借りて商賣をするものと考へる、

第十三課 取引 (意義及種類)

取引の意義

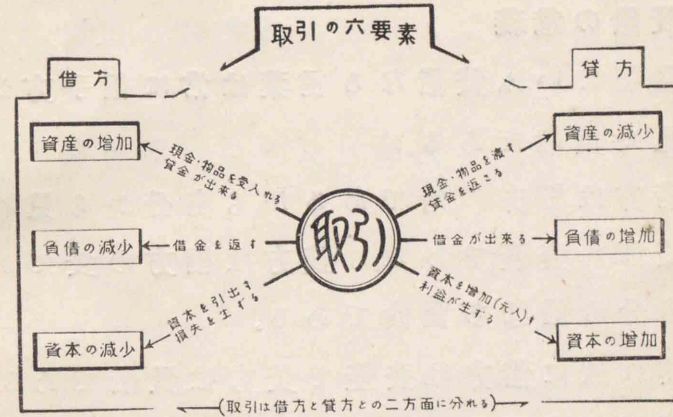
取引といふ言葉は普通、賣買とか商品の受渡といふ意味に用ひてゐるが、簿記に於ては財産即ち資産と負債が増減變化する事を意味する、其れ故に財産に増減變化があれば地震や火事で家が潰れたり焼けたりしても取引である。

一つの取引は總て次のやうに二つの方面に同時に現れる。

現金を受入れる	} と同時に	現金を支出する
物品を受入れる		物品を渡す
貸金が出来る		貸金が返さる
借金を返す		借金が出来る
資本を引出す		資本増加(元入)す
損失が生ずる		利益が生ずる

即ち一方(借方)に資産、負債又は資本の増減があれば必ず他方(貸方)に、之に相當する資

産、負債又は資本の増減がある、之を取引の六要素といふ。



かやうに取引を二方面即ち借方と貸方とに分けて仕譯、記帳するから、之を複式簿記といふ。

取引の種類

取引は次の種類に分けることが出来る

- 1) 交換取引 例、商品を賣渡したとき(變化)
- 2) 損益取引 例、手数料を受取り、又は支拂つたとき (増減)
- 3) 混合取引 例、商品を賣渡して利益を得たとき (増減變化)

第十四課 仕 譯 (貸借の意義)

貸借の意義

簿記でいふ貸借なる言葉は常に相手方から見た貸借である。

借方は相方の借であるから自分から見れば貸即ち資産である、貸方は相方の貸だから自分の借即ち負債である。

其れ故に借方は資産で貸方は負債である。

資産額と負債額との差引が資本額である即ち資産額が負債額より多いだけが資本額である。其故に資産額は負債額に資本額を加へたものである。

(1) 資産額 - 負債額 = 資本額 (2) 資産額 = 負債額 + 資本額

財産状態を表はす時に借方に資産を、貸方に負債及び資本の額を記入する。

仕譯とは取引を借方と貸方とに分けてそれぞれ適当な勘定科目名をつけることである。

仕譯の方法は先づ取引の六要素に従つて資産負債又は資本の何れが増減したかを考へ、次に借方と貸方とに分ける、常に借方は左方に、貸方は右方にある。

例 1. 銀行預金の利息五拾圓を現金にて受取る

現金(資産の増加) ¥ 50.00 利息(資本の増加) ¥ 50.00

2. 家賃參拾五圓を現金にて支拂ふ。

家賃(資本の減少) ¥ 35.00 現金(資産の減少) ¥ 35.00

3. 安井商店から商品壹千五百圓を仕入れて、此の代金の内壹千圓を現金で支拂ひ、残額を掛こす。

商品(資産の増加) ¥ 1,500.00 現金(資産の減少) ¥ 1,000.00

安井商店(負債の増加) ¥ 500.00

4. 高井商店へ商品七百圓を販賣し、此の代金を現金にて受取る。

現金(資産の増加) ¥ 700.00 商品(資産の減少) ¥ 700.00

5. 安井商店へ掛代金残額を現金で支拂ふ。

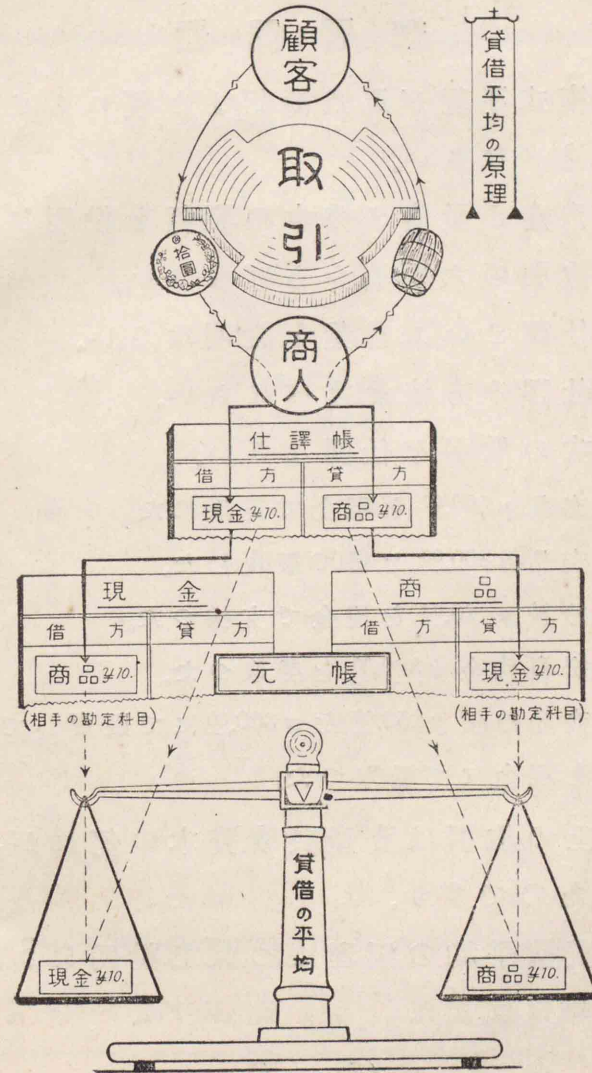
安井商店(負債の減少) ¥ 500.00 現金(資産の減少) ¥ 500.00

第十五課 貸借の平均

現金拾圓で米壹俵を販賣した場合に、その取引は一方に現金なる資産が増加し、他方に商品なる資産が減少したので結局資産の種類が變つたのに過ぎない。即ち借方に財産の増減があれば必ず貸方にそれに相當する財産の増減があつて双方とも同一の金額が増減される。故にそれが仕譯帳に記載されても又元帳に轉記されても借方の合計金額と貸方の合計金額とは常に相均しい、之を貸借の平均といふ。

又給料を支拂つたを考へても同じである
借方 給料(資本減少) ¥50.00 貸方 現金(資産減少) ¥50.00

この貸借の平均といふことは複式簿記の特徴であつて、若し借方と貸方との合計金額が平均してゐなければ書落しか、書誤りが轉記漏れかの結果である、又其の合計が平均してゐれば記帳計算の正確なことを示すものである。



練習問題

- 1) 複式簿記が單式簿記より優れるところを述べなさい。
- 2) 資産と負債と資本の關係を説明なさい
- 3) 取引の六要素をあげなさい。
- 4) 仕譯といふ言葉を説明なさい。
- 5) 仕譯の方法を述べなさい。
- 6) 次の取引を仕譯なさい。
 - イ、商品 ¥500.00 を現金で買入れた。
 - ロ、商品 ¥300.00 を掛で販賣した。
 - ハ、給料 ¥20.00 を現金で支拂つた。
 - ニ、掛賣代金 ¥300.00 を受取つた。
 - ホ、商品原價 ¥250.00 を ¥300.00 にて販賣して代金を現金にて受取つた。
- 7) 上の取引は資産、負債、資本の何れが増減したのですか。
- 8) 貸借平均の原理について説明なさい。

—(卷一終)—

高等小學簿記書

昭和七年九月廿五日 印刷
 昭和七年九月廿八日 發行
 昭和七年十二月廿三日 訂正再版印刷
 昭和七年十二月廿六日 訂正再版發行

著作權



定價

一卷	金貳拾錢
二卷	金貳拾貳錢

著 作 者	發 行 者	印 刷 者	印 刷 所
田 中 滿 三	金 井 基 祐 <small>東京市神田區錦町一丁目十二番地</small>	村 田 善 彦	株式會社 大倉印刷所 <small>東京市京橋區湊町三丁目十二番地一</small>

發行所 彰文館 東京市神田區錦町一丁目十二番地
 振替東京六一一九六番

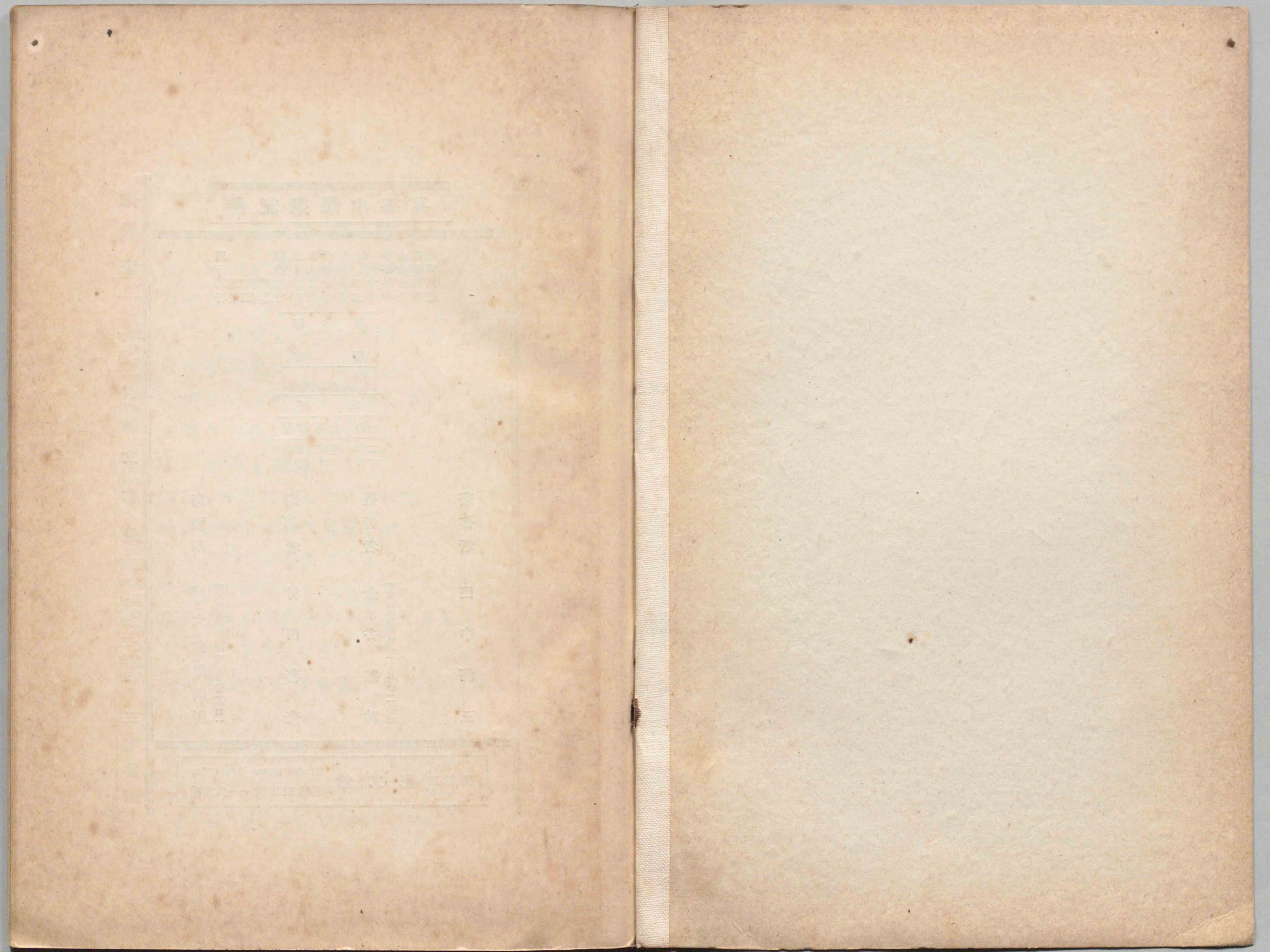
特約店

東京市神田區錦町

文修堂

大阪市東區橫堀

三宅書店



広島大学図書

0130449263

